

「光輝（かがやき）」プログラム		幼小接続期	2年生	(全 45 時間)
2年生で育成したい資質・能力				
育成したい 資質・能力	躍動する感性	①	人間味溢れる豊かな感覚	身近なものや人とかかわる中で、おもしろさや不思議さなどを豊かに感じ取るとともに、自分とは異なる感じ方があることに気づき、その感じ方に興味をもったり、受け入れたりすることができる。
		②	自ら学ぼうとする姿勢	学校生活や授業の中から自己を見つめ直し、前向きに取り組むことができる。
	レジリエンス	③	粘り強く取り組む力	自分（たち）が決めた目標に対して、継続して取り組むことができる。
		④	コラボレーションする力	友達と交流することで、考えの違いを認め、協力してさらによりよい考えにしていけることができる。
		⑤	複眼的に思考する力	身近な人や友達の様々な方法や考え方にふれ、より良い考えをもつことができる。
	横断的な知識	⑥	知識と知識を関連づけながら深く追究する力	今まで経験したことや学んだことを生かして、新たな気づきを見いだしたり、解決へ向けて試したりすることができる。
		⑦	論理的に問題を解決する力	身近な人や友達の様々な方法や考え方にふれ、より良い考えをもつことができる。

単元名	伝えたいことを伝えよう「きらきらCMづくり」
単元を通して 目指す子ども像	子どもたちがこれまでに経験してきたり学んだりしたことを生かして、1～6年生に伝えたいことをCMにして、伝えようとしている。CM作りを通して、友達の考えや自分の考えを交流しながら、より良いものを求めようと粘り強く取り組み、失敗やうまくいかないことも経験しながら、解決へ向けて試行錯誤している。

段階	I (1～7)	II (8～16)	III (17～41)	IV (42～45)	
学習課題	自分（たち）の目指す姿に近づくためには、どんな活動をどのようにしたらよいか	どんなCMにするのか考える。	どうしたら、見る人に伝わるCMになるだろうか。	CMを見てもらい、自分たちの活動を振り返る。	
育成したい 資質・能力	人間味溢れる 豊かな感覚	伝えたいことを出し合う 提案する・述べる	アイデア・意見を出す 生み出す・提案する	全校に発表する 評価する・振り返る	
	自ら学ぼうとする姿勢	目指す姿を設定する 振り返る・計画する	内容を決める 選択する・説明する	必要な情報を集める・つくる 調べる・準備する	目指した姿を振り返る 振り返る・見直す
	粘り強く取り組む力		伝えたいことを絞る 議論する・判断する	情報を集めてつくる 再考する・修正する	
	コラボレーション する力	関わりを広げるチーム分け 振り返る・協力する	伝えたいことを絞る 議論する・判断する	CMを見合う 質問する・提案する	CMを見合う 評価する・振り返る
	複眼的に思考する力		相手の立場に立って考える 認識する・検証する		
	知識と知識を関連づけながら 深く追究する力	経験や学びをもとに考える 関連付ける・応用する			
	論理的に問題を 解決する力			相手に伝わる工夫をする 修正する・精選する	
関連する 活動	教科	生活科	国語		
	見方や考え方	社会及び自然を自分とのかかわりで捉える	伝わりやすい言葉を選ぶ		
	道徳	活動		道徳の教科書の「本がかりさんががんばっているね」を題材として、グループの中で自分の役割を進んで行うことの大切さについて話し合う。【1】	道徳の教科書の「なわとび」を題材として、目標に向かって最後までやり遂げることの大切さについて話し合う。【1】
		道徳的価値		勤労・公共の精神	努力と強い意志
	道徳	活動			
		道徳的価値			
特活	はたらきかけ	これまでの経験や学びを振り返る場を設ける。	合意形成を図るための話し合い方や手順、方法を子どもたちの話し合いに必要なタイミングで伝える。	多様な意見から、合意形成を図るための話し合いができていないグループを取り上げ、評価し、価値づける。	
	はたらきかけ	小集団をつくることで、他者と協働しながら一人一人が役割をもって取り組めるようにする。		実践して終わりにせず、振り返りの場を設けることで、何でできたのか、何でできなかったかを話し合い、互いの頑張りを認めたり次単元への見通しをもつことができるようにする。	

評価方法	観察・振り返り	観察・振り返り	観察・振り返り	観察・振り返り
------	---------	---------	---------	---------

「光輝（かがやき）」実践記録			幼小接続期	2年生	(全45時間)
単元名		伝えたいことを伝えよう「きらきらCMづくり」			
段階	評価方法	資質能力	子どもの姿	教師の気づき	
				計画変更点・理由	有効であった手立て
I	観察	⑤	・1年生の時にお店を開いたから、今度は「おみせづくり」「遊び場作り」「1年生を招待したい」など、子どもたちは経験からアイデアを出そうとした。		<ul style="list-style-type: none"> ・経験からでしか考えることができない難しさを、教師は理解し、子どもの発想の幅を広げるために子どもが取り組んでいる学習に関係すること・交流が仕組めそうなことなどの活動内容を子どもたちに示した。 ・チーム分けでは、教師が、子どもからの意見を全体に再度投げかけ、子どもに考えさせることを意識した。また、「話したことが少ない人」等と、該当者の少ない条件が出た際には、決まりにくいのではないかと投げかけ、第二条件を設定することを示した。
	観察	③	・「仲をもっと深めていろんな人と関わりたい。」という意見から、チームで行うこと、子ども主体でチーム分けをすることになった。普段あまり関わることが多くない人や男女関係なく分けることが子どもから挙がった。		
II	観察	④	・活動やつけた力が決定した後、CMの内容を話し合った。子どもたちからは、スイミーの劇など、2年生で学習したことや頑張っていること・みんなが好きそうなことが挙がった。		<ul style="list-style-type: none"> ・「誰にどんなことを伝えたらいいことがあるのか」という相手意識をもてる姿をねらっているため、相手がどう思うのかを考えられていることを評価し、意識づけるようにした。そして「同じことがいっぱい」という子どもの意見が全体で共有できるように、CMの内容を「紹介」・「アピール」・「注意喚起」どれに当たるのか、子どもたち同士で話し合う場面を設けた。
	観察		・伝えたい内容を出し合い、学年で、それが見る人にとって見たいCMになっているか相手意識をもって考えた。		
	観察		・それぞれのグループが伝えることを決定して、キャッチフレーズ（特に伝えたいこと）を考えた。		
III	観察		・グループに分かれて、伝えたいことを撮っていった。劇を取り入れたり、写真を取り入れたりしてそれぞれグループで話し合いながら創意工夫して撮っていた。		<ul style="list-style-type: none"> ・失敗したり困ったりしている場面であっても、子ども主体で、教師は基本的に見守る。それができるように、何度も撮り直しができる時間の確保と場の保証を行った。 ・他グループと見合う場を設けることで、自分のグループでは気づかなかったことに気づき、改善することができた。
	観察		・クラスで出来上がったCMを見合い、もっと良くなるためにはどうしたら良いか他グループへアドバイスを伝えたり、他グループの良さを感じたりして、それを基に再度CMを改善していった。		
	観察		・学年で出来上がったCMを見合い、伝わらなかったところを教えたりアドバイスを伝えたりした。それを基に再度CMを改善していった。		
IV	観察		・出来上がったCMを全学年の1組に見てもらった。自分たちのCMが伝わったのか知りたいという意見から、アンケートを取って、意見を書いてもらうことになった。アンケートを見ると、「伝わった」も多かったが、「伝わらなかった」という厳しい意見もあった。「もっとこうすると良い」という他学年のアドバイスから、2組に見せるCMはもっと良くしたいという子どもたちの思いが強くなり、CMをもう一度撮り、2組に見てもらった。		<ul style="list-style-type: none"> ・全校一斉に見せるのではなく、まずは1組から見てもらい、改善したものを2組に見せることができるように、意図的な依頼をした。そのことで、相手に伝わらなかったで終わるのではなく、伝えることができたといった満足感を味わうことができた。 ・2回目のアンケートでは良かったことを重点的に書いてもらうことで、子どもたちが改善した結果が良かったことにつながっていることを実感することができるようにした。
	観察		・アンケートからは、多くの意見が「伝わった」というもので、満足した。他学年の感想や自分たちの満足感から、どうして、みんなに伝えることができたのかと振り返った。「みんなと協力できた」「何度も撮りなおしたけれど、諦めずに完成できた。」と具体的なエピソードも含めて子どもたちの言葉で語る事ができた。		